

平 戸 市
総合計画策定におけるアンケート
調査結果概要

【市民、職員、事業所、市外在住者、公共団体】

平成 18 年 10 月

目次

調査概要

1．調査の目的	1 P
2．対象者及び実施方法	1 P
3．留意事項	1 P
4．対象者の属性	2 P

調査結果

1．「総合計画」に対する認知度	3 P
2．市政についての関心度	4 P
3．地域の暮らしやすさ	5 P
4．平戸市の暮らしやすさ、住み心地について	9 P
5．今後の居留意向について	10 P
6．平戸市の中で全国的に自慢できるもの	11 P
7．観光面で全国にアピールする資源と活用について	13 P
8．平戸市の将来像としてふさわしいと思うもの	16 P
9．市民意見の市政への反映度、反映のための意見集約方法・反映のために力を入れること	18 P
10．まちづくり活動、地域貢献活動への参加	19 P
11．市政に関する情報の入手方法	20 P

調査概要

1. 調査の目的

新平戸市として合併後、初めてとなる総合計画を策定するにあたり、住民や職員等のまちづくりへの意向、また、平戸地区、生月地区、田平地区、大島地区それぞれにおいて、改めて課題を整理・把握し、新しいまちづくりにむけての基礎資料とするため、今回の調査を実施した。

2. 対象者及び実施方法

	市民	職員	事業所	市外在住者	公共団体
対象	市民 1	市職員	市内事業所の職員（赴任者）	市外に住んでいる広報送付者	市内公共団体から抽出
対象者数	2,500名	606名	457名 (17事業所)	166名	46団体
実施期間	平成18年 7月1日～31日	平成18年7月1日～18日			
配布方法	区長より配布。 一部、職員にて配布	各所属長より 配布	企画課より 配布	広報に同封	関係課より配 布。一部郵送
回収方法	郵送、または回収 箱へ投函 2	各所属長にて 回収	企画課にて 回収	郵送	郵送、または回収 箱へ投函 2
回収数	829 3	571	260	32	24
回収率	33.2%	94.2%	56.9%	19.3%	52.2%

- 1 市民は、19歳以上75歳未満の方のうち、地区別、性別、年齢別に人口割合を勘案して抽出
- 2 回収箱は、市役所・各支所・各出張所に設置
- 3 回収数（829）のうち回答不可の調査票が10通あるため、有効回答数は819

3. 留意事項

複数の回答を求めた設問では、集計対象者総数に対する割合を示しており、合計が100.0%を超える。

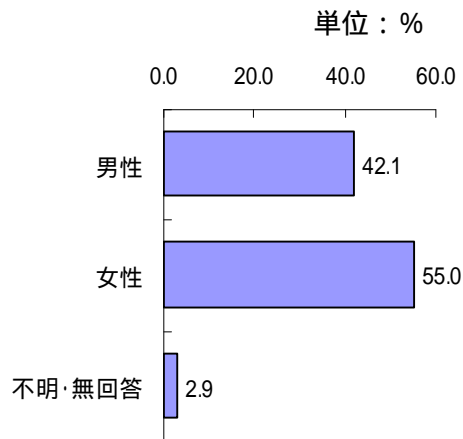
「不明・無回答」とは、回答が示されていないもの、回答の判別が著しく困難なものとなっている。

4 . 回答者の属性

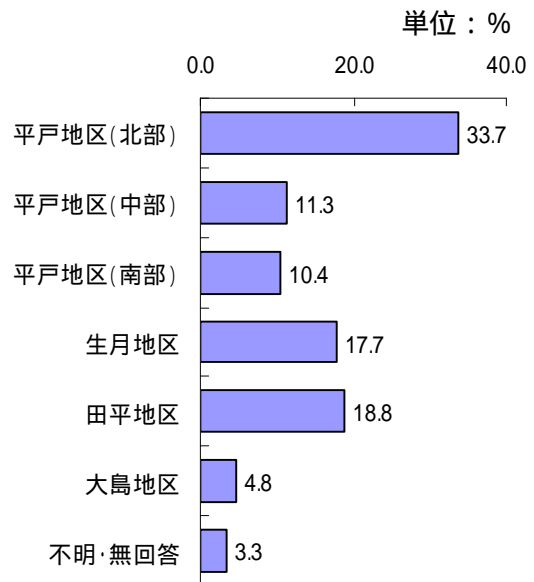
市民アンケート

サンプル数 = 819

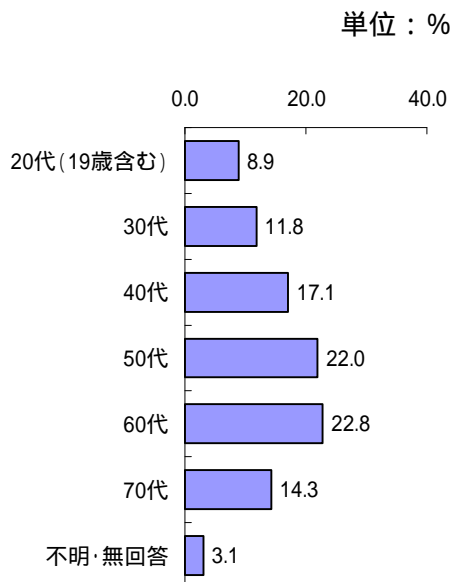
【性別】



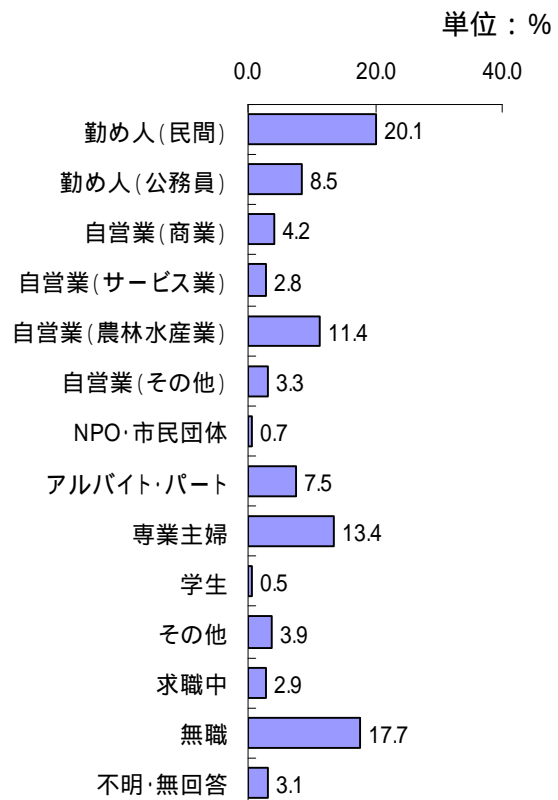
【地区】



【年齢】



【職業】



調査結果

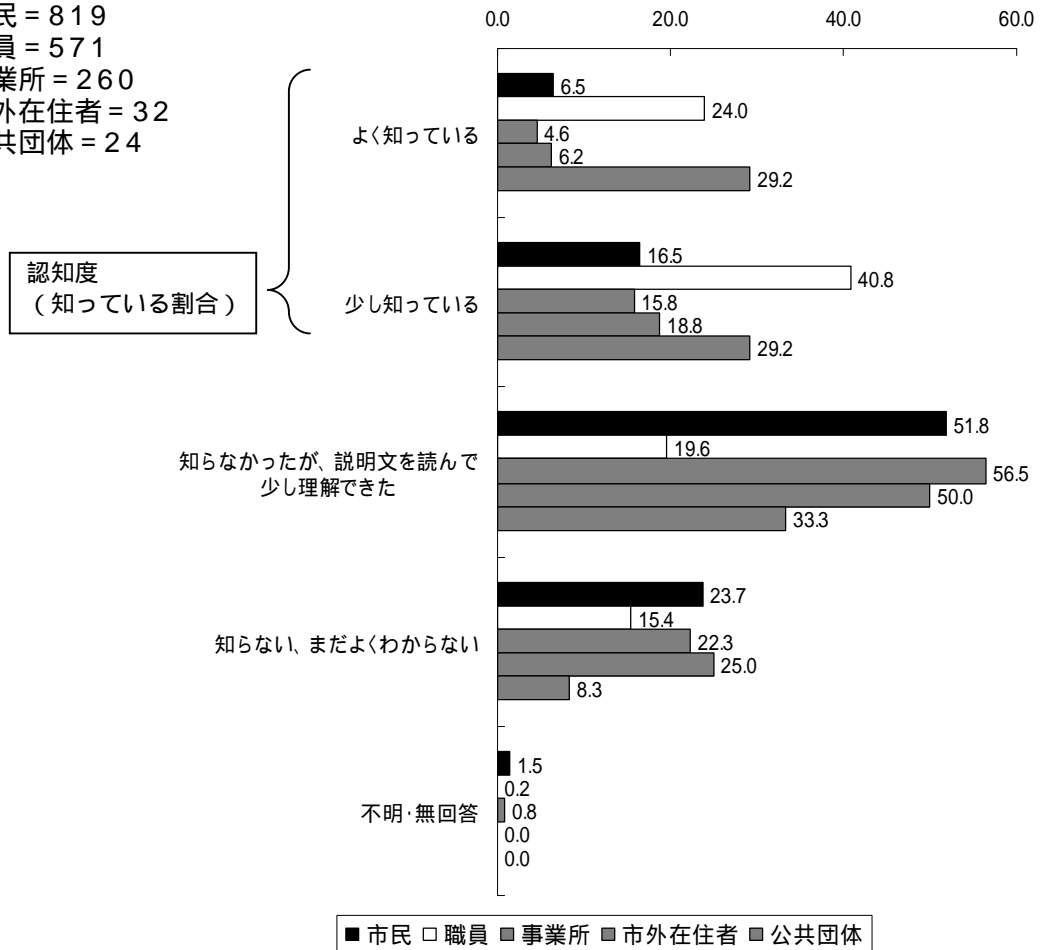
1. 「総合計画」に対する認知度（1つ選択）

<全調査共通>

サンプル数

市民 = 819
 職員 = 571
 事業所 = 260
 市外在住者 = 32
 公共団体 = 24

単位：%



市民と職員（公共団体）で意識の差がみられる

総合計画について認知度を尋ねた設問では、市民の認知度（「よく知っている」「少し知っている」の割合）が、職員や公共団体における認知度と比べると、かなり低いことがうかがえる。（市民：23.0%、職員：64.8%、公共団体：58.4%）

市民の中では、特に女性や若い世代での認知度が低かったため、今後はこうした層にむけてまちづくりの内容を、啓発・周知して市民の理解を深めていくことが重要となる。（男性：29.5%、女性：18.3%）（20代：16.5%、70代：26.5%）

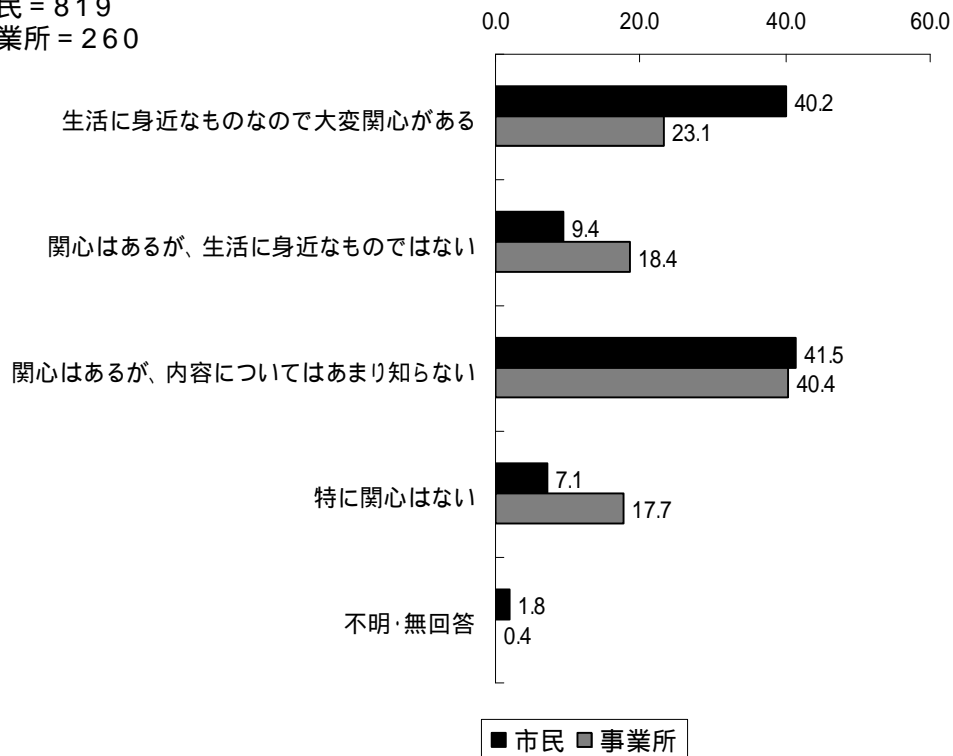
2. 市政についての関心度（1つ選択）

< 市民、事業所 >

サンプル数

市民 = 819
事業所 = 260

単位：%



「関心があり、内容についてはあまり知らない人」への対応が必要

市政について関心度を尋ねた設問では、市民において「生活に身近なものなので大変関心がある」への割合は40.2%となっている。

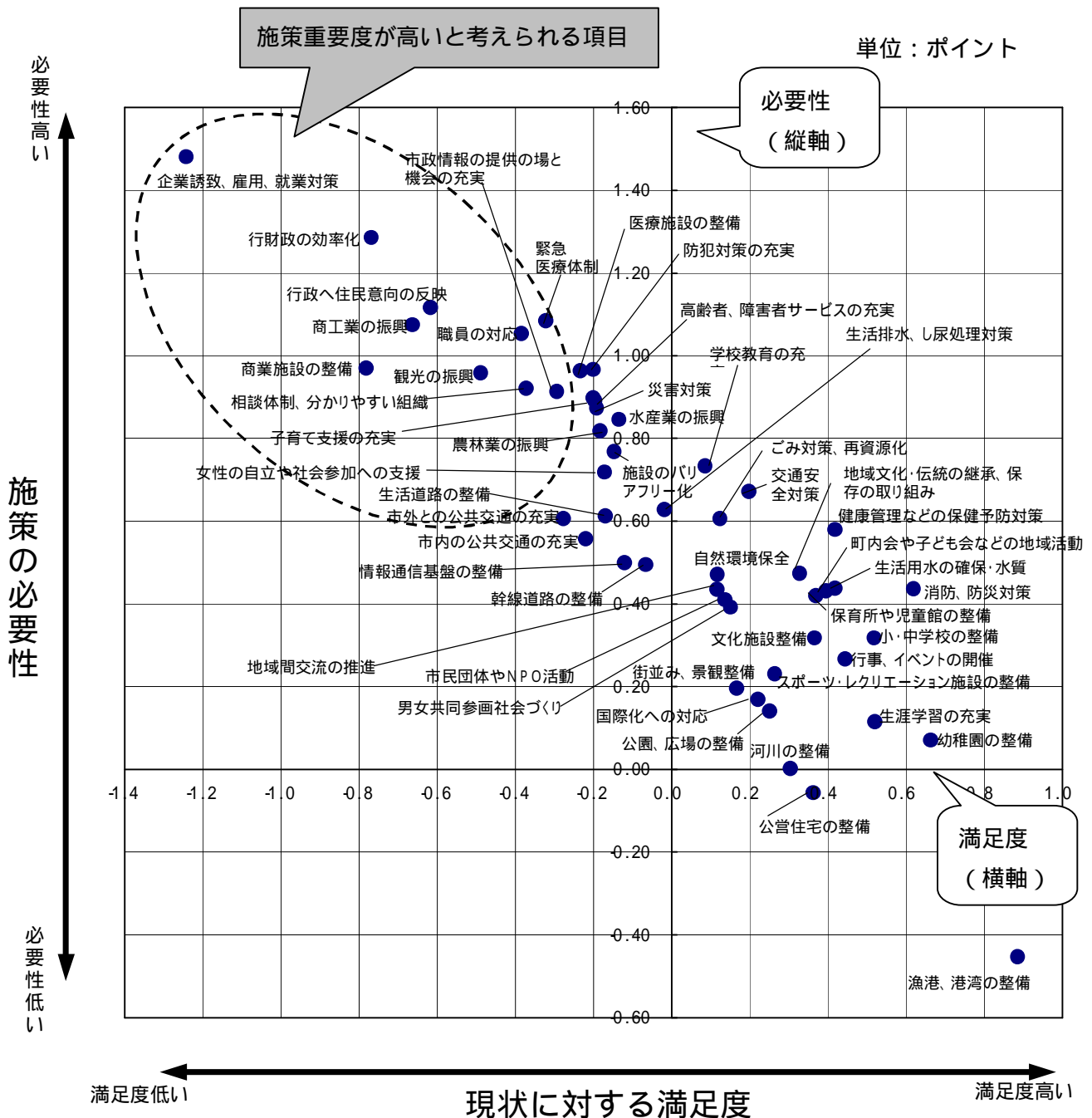
市民、事業所ともに「関心はあるが、内容についてはあまり知らない」への回答の割合は、4割を超えており、今後こうした人々が、より関心を深めていくことができるよう、市政情報等の周知を図っていく必要があるものと考えられる。

3. 地域の暮らしやすさ

< 市民 >

(「現状に対する満足度」「施策の必要性」をそれぞれ1つずつ選択)

< 市民 総合評価 >



回答については、抽出された市民から得られた意見であるため、数値の取扱については注意が必要
 グラフの囲い込み部分(点線の円部分)はイメージとして概ねの位置を示すもの

「産業の振興」「行財政運営」「医療・福祉」について重要性が高い

現状についての満足度と施策の必要性を図式化し、施策の重要性を分析すると、以下のとおりとなった。

満足度が高く、必要性が低い項目

以下2つの項目については、これまでの施策効果が十分で、今後の重要性としての優先順位は低いものと考えられることができる。

「漁港、港湾の整備」「公営住宅の整備」

満足度が高く、必要性が高い項目

主に、生活基盤分野、福祉・保健分野、教育分野、地域交流分野の以下の項目については、これまでの取り組みの効果によって市民の満足が得られているが、今後も継続して対策が必要であると考えられる項目群である。

「健康管理などの保健予防対策」「保育所や児童館の整備」

「交通安全対策」「ごみ対策、再資源化」「生活水の確保・水質」

「小・中学校の整備」「町内会や子ども会などの地域活動」

満足度が低く、施策の必要性が高いと考えられる項目

以下の項目においては、これまでの取り組みに十分な効果が得られておらず、市民意識からは重要性が高く、今後、最も優先すべき項目群であると考えられることができる。

地区別で見ると、平戸地区では行政への住民意向の反映、生月地区では医療に対する整備、田平地区では防犯対策の充実、大島地区では市内の緊急医療体制整備、公共交通の重要度が他地区に比べると高くなっている。

「企業誘致、雇用、就業対策」「商工業の振興」「観光の振興」「商業施設の整備」

「相談体制、分かりやすい組織」「職員の対応」「行政への住民意向の反映」

「行財政の効率化」「市政情報の提供の場と機会の充実」

「緊急医療体制（夜間・日中・救急）」

職員において重要度の高い項目群をみると、ほぼ市民と同じ傾向を示している。職員では福祉の項目（高齢者、障害者、子育て、医療設備、公共施設のバリアフリーの施策）に関して重要度が市民よりやや高くなっている。

【現状についての満足度（ランク表）】

	全体		平戸地区		生月地区		田平地区		大島地区	
1位	漁港、港湾の整備	0.89	漁港、港湾の整備	0.92	漁港、港湾の整備	1.00	漁港、港湾の整備	0.90	小学校・中学校の施設・設備の整備	0.89
2位	幼稚園の施設・設備の整備	0.66	消防、防災対策	0.66	消防、防災対策	0.67	幼稚園の施設・設備の整備	0.78	市民団体やNPOなどによる活動	0.80
3位	消防、防災対策	0.62	幼稚園の施設・設備の整備	0.62	幼稚園の施設・設備の整備	0.61	行事や各種イベントの開催	0.61	学校教育の充実	0.76
4位	生涯学習の充実（公民館活動、各種講演会の実施など）	0.52	生涯学習の充実（公民館活動、各種講演会の実施など）	0.54	公園、広場の整備	0.49	公園、広場の整備	0.57	交通安全対策	0.74
5位	小学校・中学校の施設・設備の整備	0.52	小学校・中学校の施設・設備の整備	0.52	河川の整備	0.48	小学校・中学校の施設・設備の整備	0.53	地域の文化・伝統の継承、保存への取り組み	0.70
6位	行事や各種イベントの開催	0.44	生活用水（飲み水など）の確保・水質	0.49	生涯学習の充実（公民館活動、各種講演会の実施など）	0.46	生涯学習の充実（公民館活動、各種講演会の実施など）	0.51	町内会や子ども会などの地域活動	0.69
7位	健康管理などの保健予防対策	0.42	行事や各種イベントの開催	0.44	保育所や児童館の施設整備	0.39	公営住宅の整備	0.47	幼稚園の施設・設備の整備	0.69
8位	生活用水（飲み水など）の確保・水質	0.42	図書館、文化ホール、公民館などの施設整備	0.41	公営住宅の整備	0.35	消防、防災対策	0.46	消防、防災対策	0.67
9位	町内会や子ども会などの地域活動	0.40	健康管理などの保健予防対策	0.41	小学校・中学校の施設・設備の整備	0.34	健康管理などの保健予防対策	0.46	生活用水（飲み水など）の確保・水質	0.61
10位	保育所や児童館の施設整備	0.37	町内会や子ども会などの地域活動	0.39	町内会や子ども会などの地域活動	0.31	町内会や子ども会などの地域活動	0.40	健康管理などの保健予防対策	0.51

40位	市外との公共交通（バス、船、鉄道）の充実	-0.28	病院、診療所など医療施設の整備	-0.29	生活に関する相談窓口や体制（分かりやすい組織機構）	-0.50	生活に関する相談窓口や体制（分かりやすい組織機構）	-0.23	地域の特性を活かした農林業の振興	-0.40
41位	市政に関する情報提供の場と機会の充実	-0.29	生活道路（身近な道路や歩道）の整備	-0.32	市政に関する情報提供の場と機会の充実	-0.62	防犯対策の充実	-0.25	市政に関する情報提供の場と機会の充実	-0.42
42位	緊急医療体制（夜間・日中・救急）	-0.32	緊急医療体制（夜間・日中・救急）	-0.33	豊かな資源を活かした水産業の振興	-0.67	子育て支援対策の充実	-0.27	地域の資源を活かした観光の振興	-0.60
43位	生活に関する相談窓口や体制（分かりやすい組織機構）	-0.37	市民に対する市職員の対応	-0.37	市民に対する市職員の対応	-0.68	市内の公共交通（バス、船、鉄道）の充実	-0.35	緊急医療体制（夜間・日中・救急）	-0.71
44位	市民に対する市職員の対応	-0.39	生活に関する相談窓口や体制（分かりやすい組織機構）	-0.40	病院、診療所など医療施設の整備	-0.69	市外との公共交通（バス、船、鉄道）の充実	-0.39	市民に対する市職員の対応	-0.78
45位	地域の資源を活かした観光の振興	-0.49	地域の資源を活かした観光の振興	-0.44	地域の資源を活かした観光の振興	-0.69	地域の資源を活かした観光の振興	-0.46	商店街や商業拠点の整備・商工業の振興	-0.84
46位	行政への住民意向の反映	-0.62	行政への住民意向の反映	-0.56	行政への住民意向の反映	-0.89	行政への住民意向の反映	-0.52	買い物、飲食が楽しめる商業施設の整備	-0.89
47位	商店街や商業拠点の整備・商工業の振興	-0.66	商店街や商業拠点の整備・商工業の振興	-0.58	買い物、飲食が楽しめる商業施設の整備	-0.91	行政運営・財政運営の効率化	-0.67	市内の公共交通（バス、船、鉄道）の充実	-0.95
48位	行政運営・財政運営の効率化	-0.77	行政運営・財政運営の効率化	-0.73	商店街や商業拠点の整備・商工業の振興	-0.91	商店街や商業拠点の整備・商工業の振興	-0.69	行政への住民意向の反映	-1.00
49位	買い物、飲食が楽しめる商業施設の整備	-0.78	買い物、飲食が楽しめる商業施設の整備	-0.73	行政運営・財政運営の効率化	-0.98	買い物、飲食が楽しめる商業施設の整備	-0.79	企業誘致や雇用対策、就業環境	-1.13
50位	企業誘致や雇用対策、就業環境	-1.24	企業誘致や雇用対策、就業環境	-1.22	企業誘致や雇用対策、就業環境	-1.40	企業誘致や雇用対策、就業環境	-1.24	行政運営・財政運営の効率化	-1.14

小数点第3位を四捨五入

【施策の必要性（ランク表）】

	全体		平戸地区		生月地区		田平地区		大島地区	
1位	企業誘致や雇用対策、就業環境	1.48	企業誘致や雇用対策、就業環境	1.49	企業誘致や雇用対策、就業環境	1.49	企業誘致や雇用対策、就業環境	1.49	行政運営・財政運営の効率化	1.48
2位	行政運営・財政運営の効率化	1.29	行政運営・財政運営の効率化	1.26	行政運営・財政運営の効率化	1.39	行政運営・財政運営の効率化	1.26	企業誘致や雇用対策、就業環境	1.42
3位	行政への住民意向の反映	1.12	行政への住民意向の反映	1.09	緊急医療体制（夜間・日中・救急）	1.31	防犯対策の充実	1.15	緊急医療体制（夜間・日中・救急）	1.35
4位	緊急医療体制（夜間・日中・救急）	1.09	市民に対する市職員の対応	1.06	商店街や商業拠点の整備・商工業の振興	1.29	商店街や商業拠点の整備・商工業の振興	1.12	市内の公共交通（バス、船、鉄道）の充実	1.22
5位	商店街や商業拠点の整備・商工業の振興	1.08	緊急医療体制（夜間・日中・救急）	1.04	行政への住民意向の反映	1.27	行政への住民意向の反映	1.07	市民に対する市職員の対応	1.15
6位	市民に対する市職員の対応	1.05	商店街や商業拠点の整備・商工業の振興	1.00	病院、診療所など医療施設の整備	1.27	買い物、飲食が楽しめる商業施設の整備	1.03	商店街や商業拠点の整備・商工業の振興	1.11
7位	買い物、飲食が楽しめる商業施設の整備	0.97	病院、診療所など医療施設の整備	0.97	豊かな資源を活かした水産業の振興	1.26	子育て支援対策の充実	1.02	行政への住民意向の反映	1.09
8位	防犯対策の充実	0.97	防犯対策の充実	0.95	市民に対する市職員の対応	1.19	高齢者、障害者のための施設整備やサービスの充実	0.97	豊かな資源を活かした水産業の振興	1.09
9位	病院、診療所など医療施設の整備	0.96	地域の資源を活かした観光の振興	0.94	市政に関する情報提供の場と機会の充実	1.13	緊急医療体制（夜間・日中・救急）	0.96	地域の資源を活かした観光の振興	1.00
10位	地域の資源を活かした観光の振興	0.96	生活に関する相談窓口や体制（分かりやすい組織機構）	0.93	生活に関する相談窓口や体制（分かりやすい組織機構）	1.10	地域の資源を活かした観光の振興	0.95	買い物、飲食が楽しめる商業施設の整備	1.00

40位	図書館、文化ホール、公民館などの施設整備	0.32	図書館、文化ホール、公民館などの施設整備	0.31	スポーツ・レクリエーション施設の整備	0.27	幹線道路（国道や県道など）の整備	0.28	市民団体やNPOなどによる活動	0.03
41位	行事や各種イベントの開催	0.27	公園、広場の整備	0.29	図書館、文化ホール、公民館などの施設整備	0.26	スポーツ・レクリエーション施設の整備	0.24	地域の文化・伝統の継承、保存への取り組み	0.03
42位	スポーツ・レクリエーション施設の整備	0.23	行事や各種イベントの開催	0.28	生活道路（身近な道路や歩道）の整備	0.19	小学校・中学校の施設・設備の整備	0.22	公園、広場の整備	0.00
43位	街並み、景観の整備	0.20	スポーツ・レクリエーション施設の整備	0.23	街並み、景観の整備	0.15	国際交流の推進など国際化への対応	0.22	公営住宅の整備	-0.03
44位	国際交流の推進など国際化への対応	0.17	街並み、景観の整備	0.20	国際交流の推進など国際化への対応	0.08	行事や各種イベントの開催	0.13	生涯学習の充実（公民館活動、各種講演会の実施など）	-0.06
45位	公園、広場の整備	0.14	国際交流の推進など国際化への対応	0.19	生涯学習の充実（公民館活動、各種講演会の実施など）	0.05	生涯学習の充実（公民館活動、各種講演会の実施など）	0.10	交通安全対策	-0.09
46位	生涯学習の充実（公民館活動、各種講演会の実施など）	0.12	生涯学習の充実（公民館活動、各種講演会の実施など）	0.15	幼稚園の施設・設備の整備	-0.03	河川の整備	0.03	小学校・中学校の施設・設備の整備	-0.09
47位	幼稚園の施設・設備の整備	0.07	幼稚園の施設・設備の整備	0.15	河川の整備	-0.09	幼稚園の施設・設備の整備	0.02	国際交流の推進など国際化への対応	-0.09
48位	河川の整備	0.00	河川の整備	0.00	公園、広場の整備	-0.11	公園、広場の整備	-0.06	街並み、景観の整備	-0.12
49位	公営住宅の整備	-0.06	公営住宅の整備	-0.01	公営住宅の整備	-0.11	公営住宅の整備	-0.13	学校教育の充実	-0.13
50位	漁港、港湾の整備	-0.45	漁港、港湾の整備	-0.51	漁港、港湾の整備	-0.59	漁港、港湾の整備	-0.45	幼稚園の施設・設備の整備	-0.18

小数点第3位を四捨五入

4 . 平戸市の暮らしやすさ、住み心地について（1つ選択）

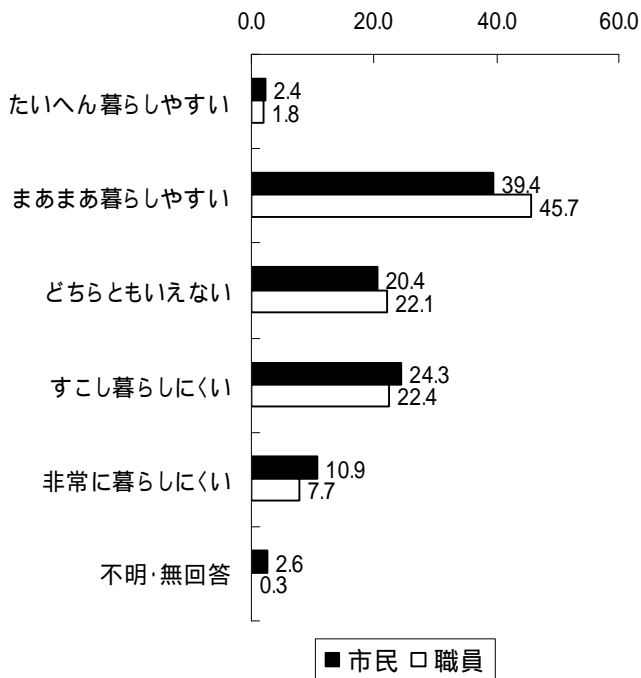
< 市民、職員、事業所、市外在住者 >

（暮らしやすさ）

サンプル数

市民 = 819、職員 = 571

単位：%

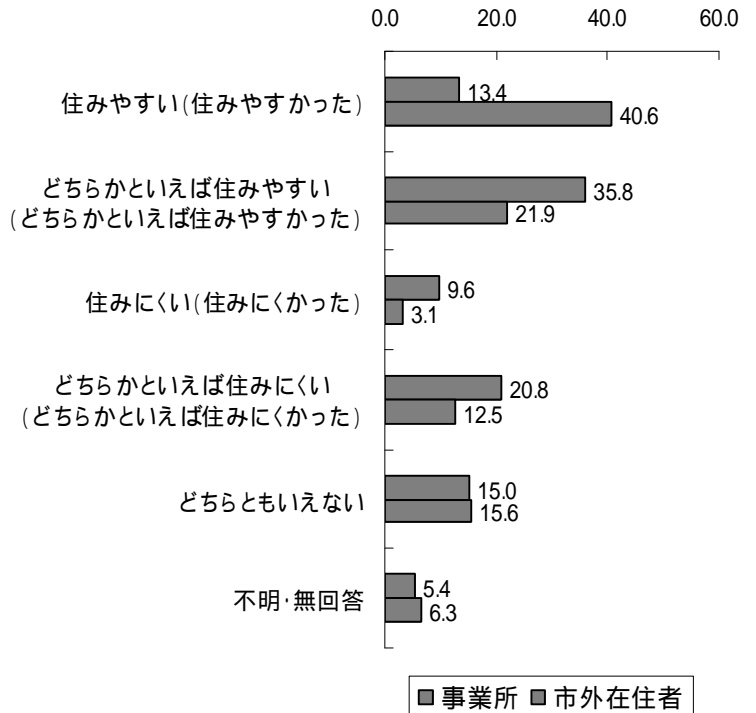


（住み心地）

サンプル数

事業所 = 260、市外在住者 = 32

単位：%



暮らしやすさ（住みやすさ）は4割以上、暮らしにくさ（住みにくさ）は約3割となっている

暮らしやすさを尋ねた設問では、「たいへん暮らしやすい」「まあまあ暮らしやすい」への割合を合計すると市民、職員とも4割以上の方が暮らしやすさを感じていることがうかがえる。一方、「すこし暮らしにくい」「非常に暮らしにくい」の合計は市民、職員とも3割ほどうかがえる。

事業所の「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」の割合の合計は約5割となっており、市外在住者では6割を超えている。一方、「住みにくい(かった)」「どちらかといえば住みにくい(かった)」の合計は事業所が約3割となっている。

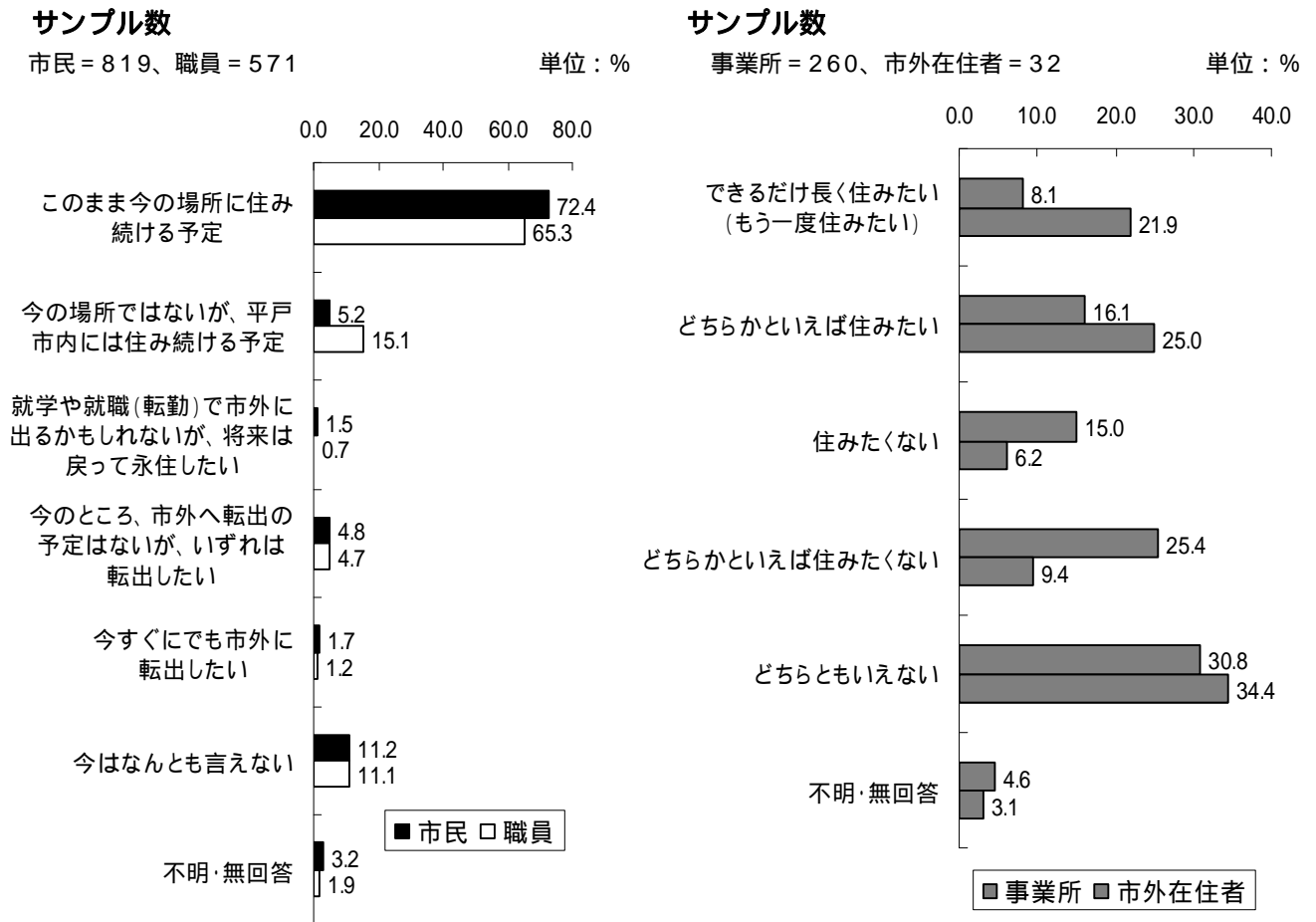
住みやすさを感じている理由は、「自然環境が良い」「安心さがある」「人が良い」などの回答があがっている。

住みにくさを感じている理由は、交通、医療、レジャーなどの生活基盤の面で「不便」なため。

自然環境の良さがある反面、都会的な利便性を求める声に適應できていないことがうかがえる。

5 . 今後の居留意向について（1つ選択）

< 市民、職員、事業所、市外在住者 >



「どちらともいえない」約3割への対応が必要

今後の居留意向は、市民、職員ともに、「このまま今の場所に住み続ける予定」が6割以上となっている。「今の場所ではないが平戸市内には住み続ける予定」の割合と合わせると、市民、職員とも7割を超えている。

事業所、市外在住者の今後の居留意向では、事業所、市外在住者ともに「どちらともいえない」が約3割を占めていることから、こうした一時的な赴任者や市外在住者の居留意向については、今後の課題として対策等を検証していく必要がある。

住みたい理由は、「自然」「空気がきれい」「静か」「人(仲間、人情)」「家がある」などがあがっている。

住みにくさを感じている理由は、交通、医療、レジャーなどの生活基盤の面で「不便」なため。

どちらともいえない理由は、「良いところ(のどかさ)も悪いところ(不便さ)もあるため」などがあがっている。

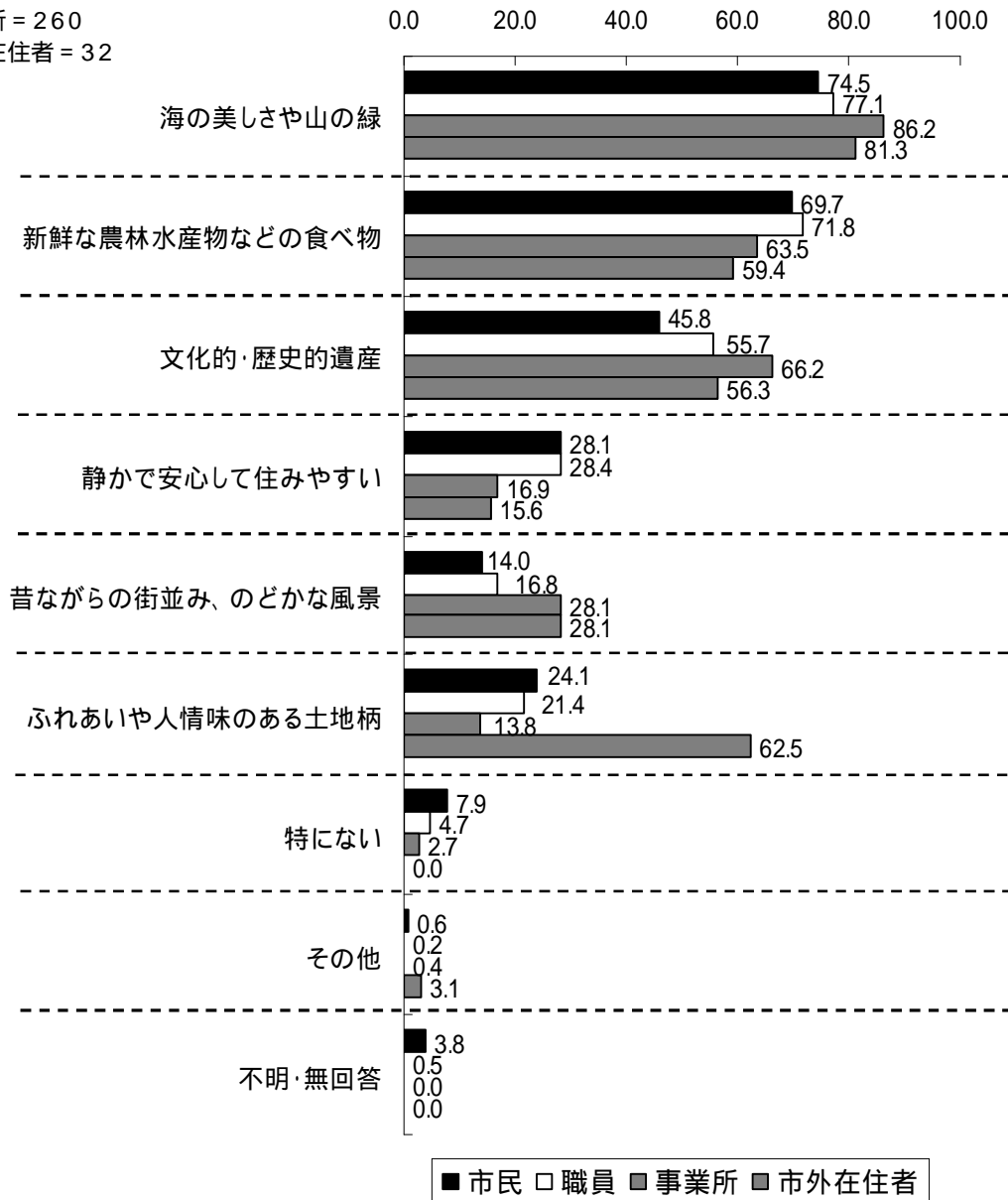
6. 平戸市の中で全国的に自慢できるもの（3つまで選択）

< 市民、職員、事業所、市外在住者 >

サンプル数

市民 = 819
 職員 = 571
 事業所 = 260
 市外在住者 = 32

単位：%



全国に自慢できるものは「自然」「歴史・文化」「食べ物（農林水産物など）」

市の中で全国に自慢できるものを尋ねた設問では、すべての調査で「海の美しさや山の緑」「新鮮な農林水産物などの食べ物」「文化的・歴史的遺産」の3つの項目が特に高く、上位を占めている。

各種対象別にみると、市民、職員では、ほぼ同じ傾向を示している。
 事業所（赴任者）では「文化的・歴史的遺産」、市外在住者では「ふれあいや人情味ある土地柄」がそれぞれ第2位となっている。

< 自慢できるもの上位5位 >

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
市民	海の美しさや山の緑	新鮮な農林水産物などの食べ物	文化的・歴史的遺産	静かで安心して住みやすい	ふれあいや人情味のある土地柄
	74.5	69.7	45.8	28.1	24.1
職員	海の美しさや山の緑	新鮮な農林水産物などの食べ物	文化的・歴史的遺産	静かで安心して住みやすい	ふれあいや人情味のある土地柄
	77.1	71.8	55.7	28.4	21.4
事業所	海の美しさや山の緑	文化的・歴史的遺産	新鮮な農林水産物などの食べ物	昔ながらの街並み、のどかな風景	静かで安心して住みやすい
	86.2	66.2	63.5	28.1	16.9
市外在住者	海の美しさや山の緑	ふれあいや人情味のある土地柄	新鮮な農林水産物などの食べ物	文化的・歴史的遺産	昔ながらの街並み、のどかな風景
	81.3	62.5	59.4	56.3	28.1

7. 観光面で全国にアピールする資源と活用について（自由回答）

＜市民、職員、事業所、市外在住者＞

観光面で全国にアピールするものは、「歴史・文化」「自然」「海」「水産物」「農産物」

観光面で全国にアピールするものを尋ねた設問では、「水産物」「農産物」、「自然」「海」、「歴史・文化」といった資源についての回答が多かった。そのほか、「街並み」「人（人柄）」「施設（温泉、キャンプ場など）」にも回答が見受けられた。

「水産物」「農産物」については、食材（料理・食べ物）として活用する意見が多い。

「歴史・文化」「自然」「海」については、現在あるそのものをうまくアピールすることと、複合的に組み合わせて活用する、という回答が多かった。観光振興については体験型で資源を活用すること、PRの方法についてはイベントやインターネットを通じて活用すること、といった回答が多くなっている。

単位：件

	市民	職員	事業所	市外在住者
歴史・文化	139	118	72	9
自然環境	125	116	39	5
海	100	59	36	4
水産物	147	142	63	10
農産物	59	85	23	2
施設	39	32	5	3
まちなみ	15	20	6	
人	22	20		
観光振興	41	47		
PRについて	13	38		
交通、道路	1	6		1

【分類表まとめ】

活用資源 (キーワード)	主な意見	
	具体的名称等	活用方法等
歴史・文化	歴史遺産、文化(遺産)、史跡、教会(群)、オランダ商館(交流・歴史)、貿易地、海外貿易、南蛮交流、鄭成功、城、資料館、ザビエル 等	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史全般をPR ・自然やその他の資源と複合的に組み合わせた観光の取組み ・PRはイベント等通じて ・PR対象は若い人、学生、団塊の世代、アジア(中国、台湾、韓国等) ・案内板、資料の充実
自然環境	美しい自然(景観)、山、緑、棚田、休耕田、島、四季、平戸つつじ、サクラ、アジサイ、花、のどかな風景、眺望、きれいな空気、夕日 等	<ul style="list-style-type: none"> ・自然をそのままPR ・自然と共存する(自然保護、自然環境配慮) ・歴史やその他の資源と複合的に組み合わせた観光の取組み ・キャンプ、体験型(学習)など
海	きれいな海、海水浴場、浜辺、海岸線の美、マリンレジャー(船、クルージング、釣り、ダイビング)、ヨットハーバー、海岸線のサイクリングロード、海上タクシー、海釣り公園、マリンスポーツ 等	<ul style="list-style-type: none"> ・自然景観としてPR ・レジャーとして活用 ・自然のキーワードの中でも海は中心 ・海岸線、浜の整備
水産物	海産物(水産資源)、魚(新鮮、おいしい魚)魚介類、漁、ひらめ、かまぼこ、サザエ、ウチワエビ、干物、飛魚、活魚料理 等	<ul style="list-style-type: none"> ・食材、料理、食べ物としてPR ・特産品、土産品、加工品開発による活用(ブランド化) ・安全な食、地産地消、郷土料理として活用
農産物	農産物、畜産物、平戸牛、野菜、しいたけ、カボチャ、放牧、肉 等	<ul style="list-style-type: none"> ・ブルーツーリズム(グリーンツーリズム) ・漁師体験、農業体験として活用 ・テレビ、イベントPR、インターネット販売等で活用 ・歴史、文化と連携した観光の取組み ・ツアーの一部として活用
施設	温泉、キャンプ場、水族館、宿泊施設の整備、博物館、広域公園、自然を活かした娯楽施設、歴史の施設、大規模なお土産センター、釣り堀 等	<ul style="list-style-type: none"> ・施設をつくる ・現存施設を整備する(生かす) ・地元の人々が和む場所の提供 ・家族や子どもが遊べる場所 ・歴史や自然と一体化した施設整備

活用資源 (キーワード)	主な意見	
	具体的名称等	活用方法等
まちなみ	街並み、昔ながらの街並み、散策コース整備、景観形成、異国情緒ある街並み、独特の街並み（大島地区など）等	<ul style="list-style-type: none"> ・景観を整備、保存する ・街道の草取り、清掃等
人	人情、人とのふれあい、人柄、温かい人情、交流人口、人心、島っ子、子どもの笑顔、観光をまとめるリーダーの育成、市民全員の協力、市民自体の学習、団体、ゆかりある文化人 等	<ul style="list-style-type: none"> ・人柄の良さを生かす ・思いやり、もてなしの心の意識 ・体験観光による交流人口の増加 ・市民と市行政の連携 ・市民が説明できない人が多い（人材を育てる）
観光振興	滞在型観光、体験型観光、日帰り観光、ホームステイ（生活体験）、国際観光、アジア（中国、韓国、台湾）の観光客誘致、バスツアー、修学旅行、遠足、船での島巡り、大島の民泊、観光ボランティア 等	<ul style="list-style-type: none"> ・資源を複合的に組み合わせる ・観光コース、ルートを組立てる ・体験型で観光してもらう ・イベント、他資源との組み合わせ ・複合（食事、バス）ツアー ・マップ、案内板を作成
PR	イベント、テレビ、観光パンフ、映画の撮影、インターネット、新聞広告、チラシ、祭り、割引チケット発行、シンボル（キャラクター）作成、他にないものをPR 等	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント等の開催 ・歴史や自然をもっと知ってもらう ・ネットや新聞広告などを通じてアピールする
交通	アクセス整備、不便さをなくす、道路・駐車場整備 等	<ul style="list-style-type: none"> ・現状検証、整備 ・利便性の向上
その他	天然水、抹茶（初の茶園）、橋、鯨組、伝統芸能、平戸くんち、宗教（仏教）、平戸の夏、トライアスロン、フルマラソン、行政支援、空家の利用、Uターン・Iターン、高齢者を移住させる、田助ハイヤ節、市街の商店街の強化、ライフカントリーの整備、安全なまち（自然災害等が無い地域）、夜にふさわしい街並み、市民にプランを募集、博多どんたくに出演 等	<ul style="list-style-type: none"> ・平戸市にしかないものを活用 ・複合的に組み合わせる

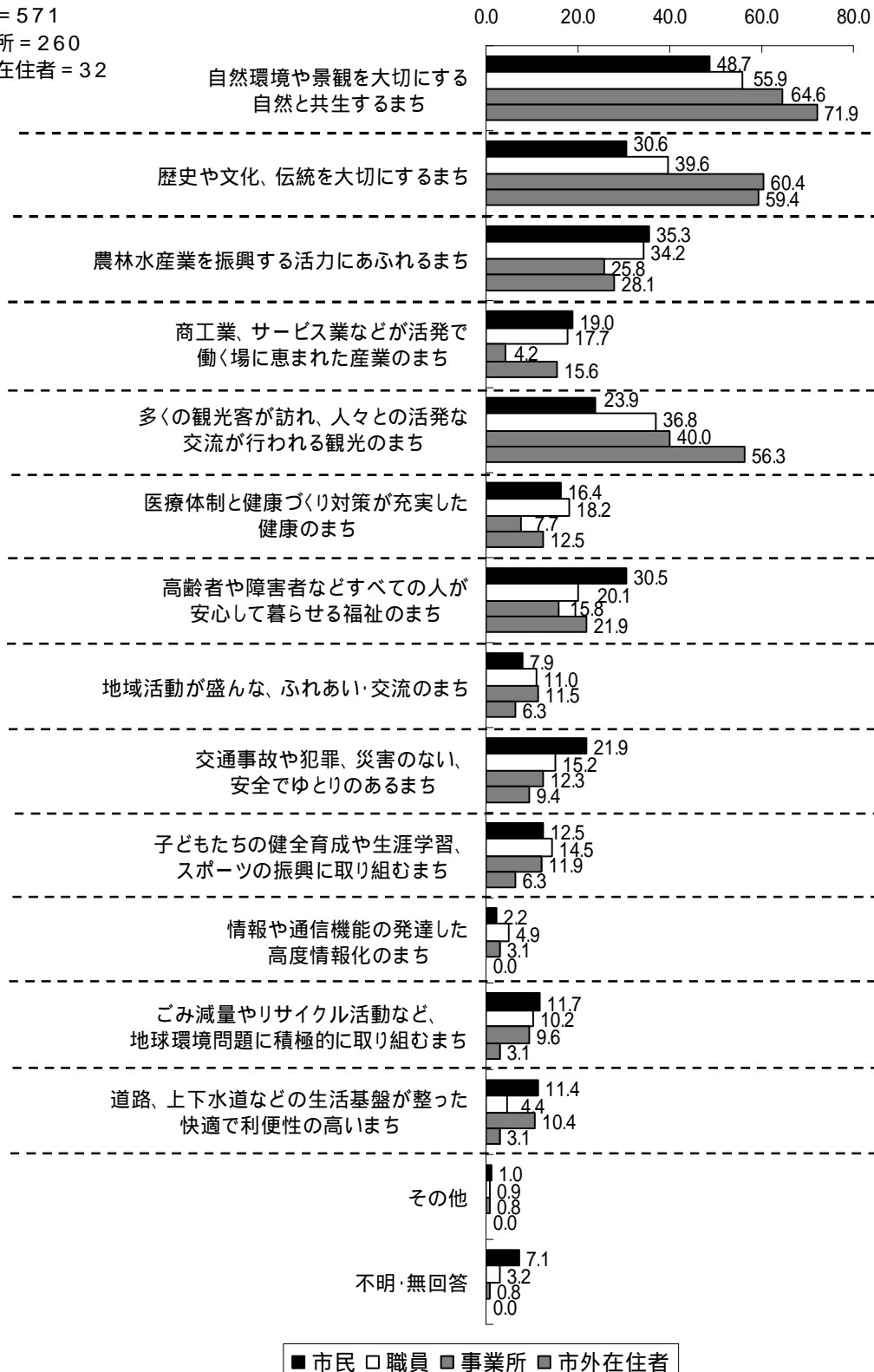
8. 平戸市の将来像としてふさわしいと思うもの（3つまで選択）

< 市民、職員、事業所、市外在住者 >

サンプル数

市民 = 819
 職員 = 571
 事業所 = 260
 市外在住者 = 32

単位：%



将来像にふさわしいものは「自然と共生するまち」が最も多い

将来像について尋ねた設問では、「自然環境や景観を大切に自然と共生するまち」への回答がすべての調査で第1位となっている。

事業所、市外在住者をみると、「歴史や文化、伝統を大切に自然と共生するまち」への回答の割合が約6割となっている。

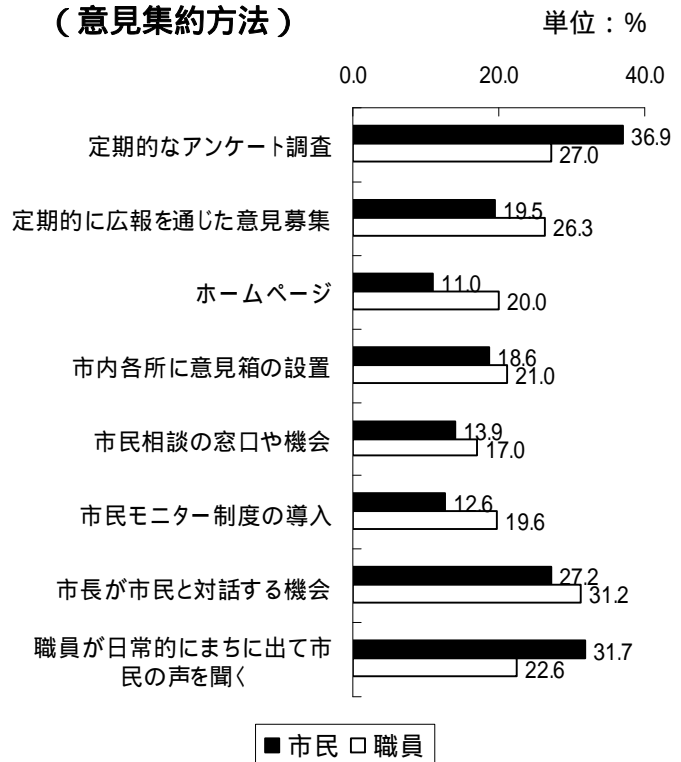
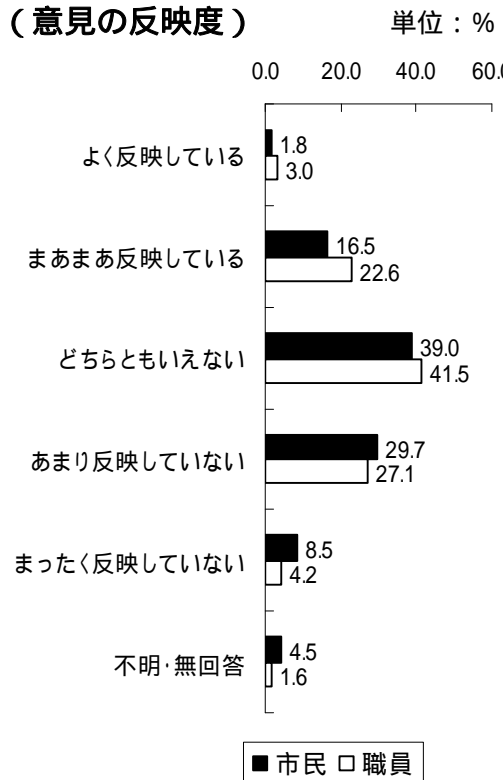
市民でのみ、「農林水産業を振興する活力にあふれるまち」への回答が第2位となっている。

< 将来像上位5位 >

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
市民	自然環境や景観を大切に自然と共生するまち	農林水産業を振興する活力にあふれるまち	歴史や文化、伝統を大切に自然と共生するまち	高齢者や障害者などすべての人が安心して暮らせる福祉のまち	多くの観光客が訪れ、人々との活発な交流が行われる観光のまち
	48.7	35.3	30.6	30.5	23.9
職員	自然環境や景観を大切に自然と共生するまち	歴史や文化、伝統を大切に自然と共生するまち	多くの観光客が訪れ、人々との活発な交流が行われる観光のまち	農林水産業を振興する活力にあふれるまち	高齢者や障害者などすべての人が安心して暮らせる福祉のまち
	55.9	39.6	36.8	34.2	20.1
事業所	自然環境や景観を大切に自然と共生するまち	歴史や文化、伝統を大切に自然と共生するまち	多くの観光客が訪れ、人々との活発な交流が行われる観光のまち	農林水産業を振興する活力にあふれるまち	高齢者や障害者などすべての人が安心して暮らせる福祉のまち
	64.6	60.4	40.0	25.8	15.8
市外在住者	自然環境や景観を大切に自然と共生するまち	歴史や文化、伝統を大切に自然と共生するまち	多くの観光客が訪れ、人々との活発な交流が行われる観光のまち	農林水産業を振興する活力にあふれるまち	高齢者や障害者などすべての人が安心して暮らせる福祉のまち
	71.9	59.4	56.3	28.1	21.9

9. 市民意見の市政への反映度（1つ選択） 反映のための意見集約方法・反映のために力を入れること（2つ選択） <市民、職員>

サンプル数 市民 = 819、職員 = 571



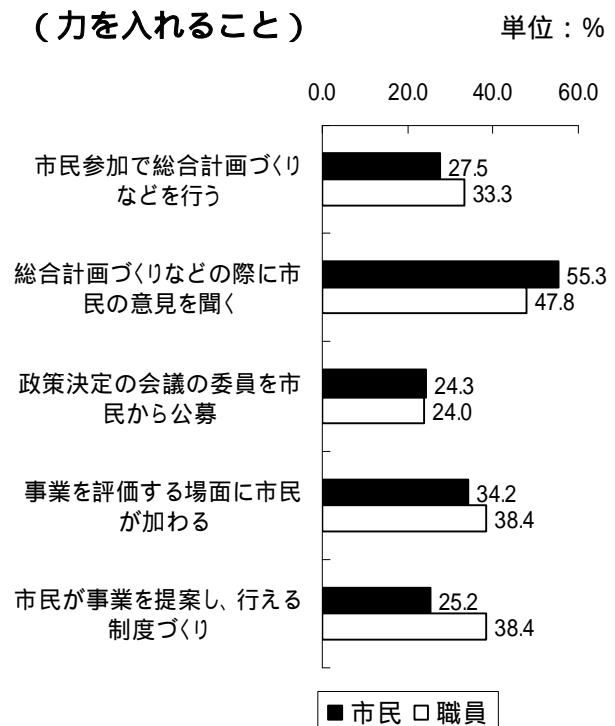
市民が望むものは「声」を聞くこと

市民意識では、市政に意見が反映されていないと感じている層が3割ほどうかがえる。

意見反映のための意見集約方法、また、力を入れるものとしては、「定期的なアンケート調査」「職員がまちに出て声を聞く」といった取り組みを望んでいることがわかる。

地区別には、生月地区、田平地区、大島地区で、意見を反映されていないと感じる割合が多かったことから、今後、意識調査や各支所と十分な連携をとり、市民の意見集約を行っていく必要があるといえる。

（力を入れること）

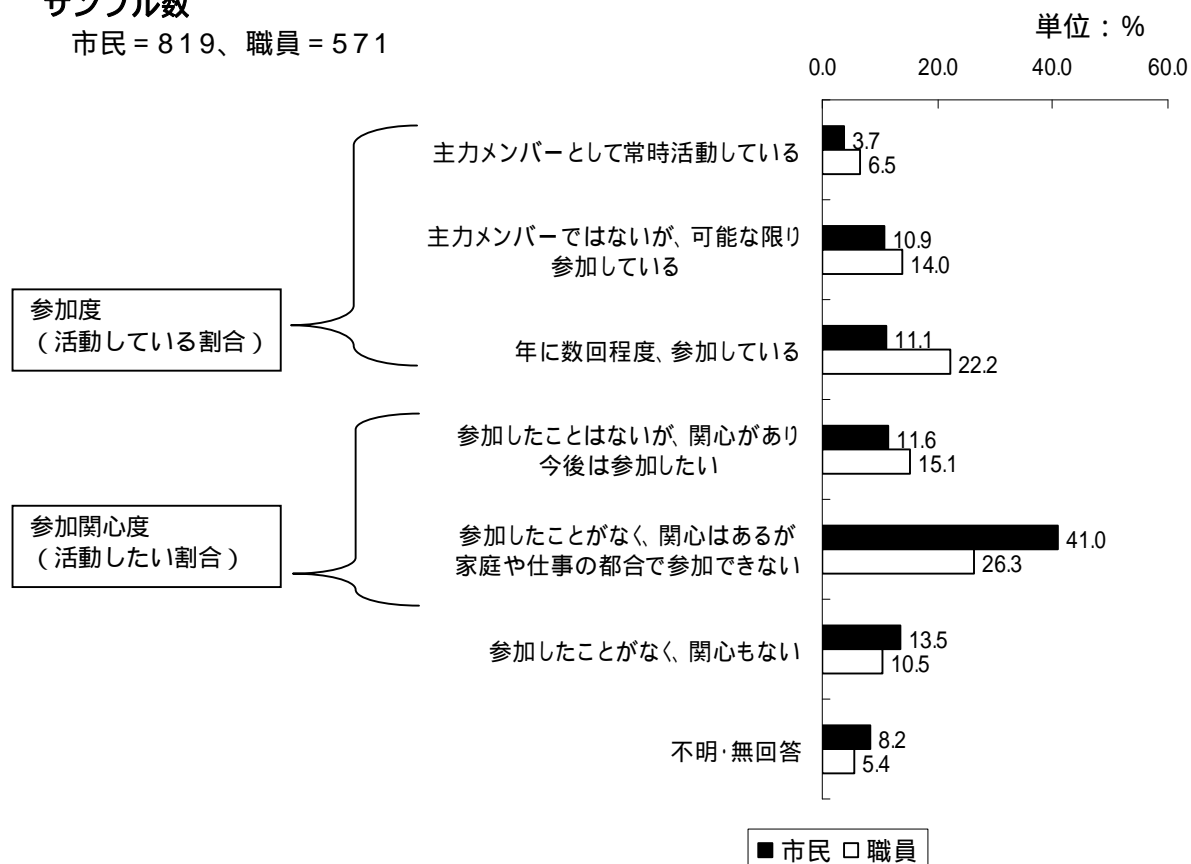


10. まちづくり活動、地域貢献活動への参加（1つ選択）

< 市民、職員 >

サンプル数

市民 = 819、職員 = 571



市民の意欲を喚起し、まちづくりへ市民参加をうながすことが必要

まちづくり活動（地域活動）への参加度は、市民では25.7%で、市民の参加度は、職員の参加度（42.7%）と比べて、少ない結果となっている。

市民の参加したい分野（ランク表）をみると、市民では「健康づくり」や「高齢者福祉」への意識が高く、今後はこうした分野の活動において参加できる仕組みづくりを行ない、特に、参加に関心を持っている人（参加関心度のある割合）を取り込んでいくことが、まちづくり参加の裾野を広げることにつながっていくものと考えられる。

【参加したい分野 上位5位】

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
市民	健康づくり	高齢者福祉	産業振興・観光振興	子育て支援	環境保全
	33.3	31.5	24.3	23.8	21.1
職員	健康づくり	産業振興・観光振興	各種イベント	子育て支援	環境保全
	34.3	30.1	29.4	26.8	26.1

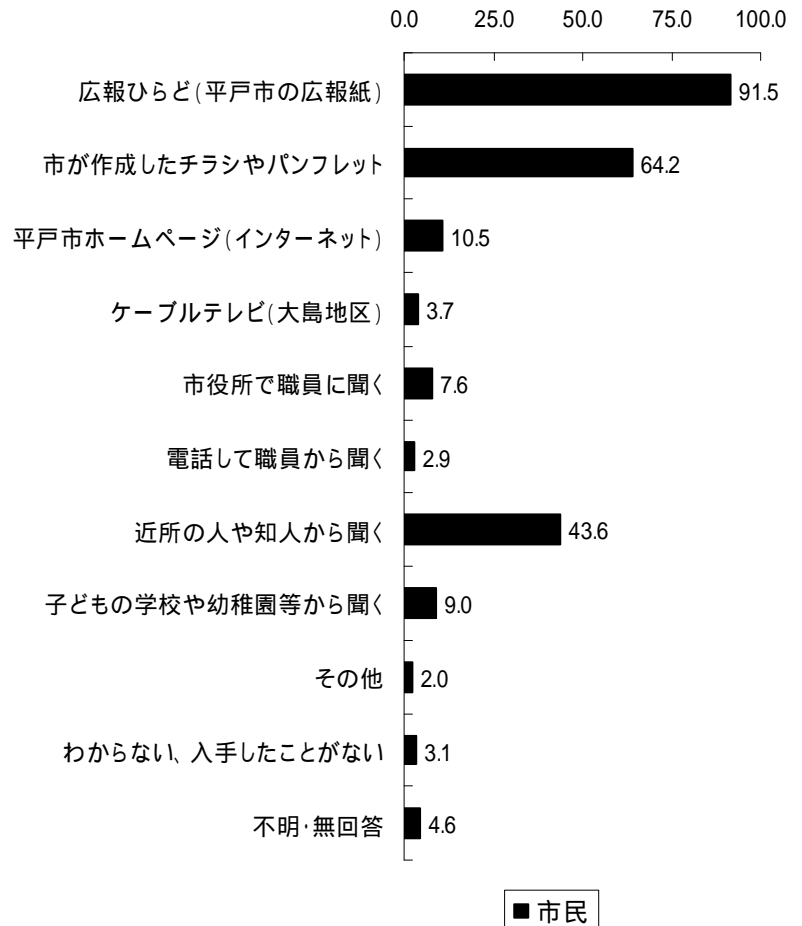
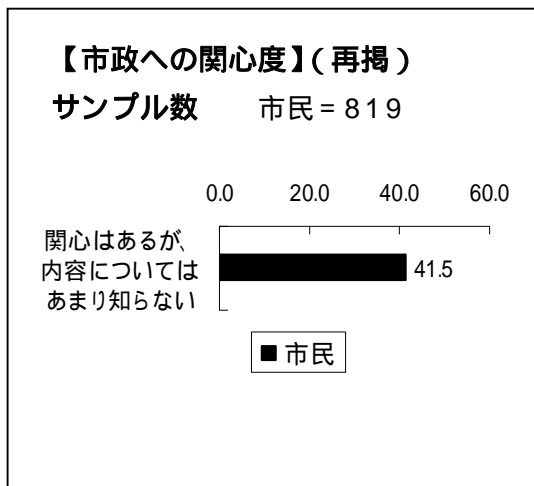
11. 市政に関する情報の入手方法（3つ選択）

< 市民 >

サンプル数

市民 = 819

単位：%



市政に関心が持てる情報提供体制の強化が必要

市政に関する情報の入手方法については、市から発行される広報やパンフレットを利用している人がほとんどであった。また、人を通じた情報（近所の人や知人）も4割ほど見受けられた。

今後は、こうした周知方法の内容をいっそう充実させ、わかりやすく市民に市政情報を提供していくことが重要である。あわせて、市民にとって有効な情報通信技術の活用（ホームページの利用）や、職員とのコミュニケーションから直接情報を得る割合を伸ばしていくことも、今後の市政への参加・関心を促すために重要な要素となってくる。